

黒部市 発表
令和6年2月21日(水)

【照会先】

黒部市防災危機管理統括監 林 茂行
防災危機管理班長補佐 若林 剛史
電話 0765(54)2112

報道関係者 各位

令和6年能登半島地震の対応等

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震の対応等について報告します。

第1. 前回全協(1/19)報告後の経過

1. 黒部市内の被害等

(1) 建物被害

120件(屋根瓦落下、屋根一部破損、外壁崩れ等) 2月19日現在

(2) 被害への主な取組

①り災証明、被災届出証明の申請・交付状況 2月19日現在

- ・申請 136件 (り災102件、被災34件)
- ・交付 118件 (り災84件、被災34件)

②令和6年能登半島地震に係る黒部市災害見舞金

- ・対象者 令和6年能登半島地震により住家が被害を受け、り災証明書の交付を受けた方
- ・見舞金額

被害の程度	全壊	半壊	準半壊	一部損壊 (補修額10万円以上)
見舞金額	10万円	5万円	3万円	2万円

③倒壊ブロック塀等除去支援費

- ・対象者 令和6年能登半島地震により倒壊したブロック塀等の処分を業者に依頼した方
- ・補助額 処分費相当額(上限2万円)
- ・申請期間 令和7年3月31日まで

2. 被災自治体への応援状況

(1) 職員派遣状況

2月19日現在

内 容	場 所	日	人 数		備 考
			1日当たり	延べ	
DMAT隊派遣	七尾市	1/2~1/5	5名	20名	医師、看護師、事務職
		1/9~1/13	4名	20名	医師、看護師、事務職
	金沢市	2/1~2/4	4名	16名	医師、看護師、事務職
応急給水	氷見市	1/4~1/5	2名	4名	
	高岡市	1/4	2名	2名	
被災建物の危険度判定	高岡市	1/5、9	1名	2名	

避難所応援職員の派遣	氷見市	1/6、12、16	2名	6名	
下水道管渠点検業務	氷見市	1/9～1/17	2名	14名	17日間従事予定
緊急消防援助隊の派遣 (新川地域消防組合)	珠洲市	1/10～1/13	10名	30名	救急車1台(入善)、 救助工作車1台(朝日)、 資機材搬送車1台(黒部)
		1/13～1/16	10名	30名	
		1/16～1/19	10名	30名	
		1/19～1/22	9名	27名	指令車1台(入善)、 救急車1台(入善)、 資機材搬送車1台(黒部)
広域応援協定による派遣 (新川地域消防組合)	輪島市	2/15～2/18	4名	12名	広報車1台(黒部)、 タンク車1台(黒部)
倒壊ブロック塀等の回収業務	高岡市	1/14	1名	1名	
災害支援ナース派遣	金沢市	1/27～1/30	1名	4名	看護師
被災家屋の解体に伴う設計 業務等	氷見市	2/5～2/9	1名	5名	
計				223名	

(2) 病院患者、福祉施設入居者の受入れ

2月19日現在

内 容	受入れ先	被災地	日	人数	備 考
療養型病院患者の受入れ	市民病院	能登町	1/5	3名	カリエールに転院
高齢者施設入居者の受入れ	市民病院	七尾市	1/10	5名	おあしす新川に2名、黒部温泉病院 に3名搬送
療養型病院患者の受入れ	市民病院	能登町	1/19	2名	2/16 カリエールに1名転院、深川 病院に1名転院
計				10名	

(3) 避難者の受入れ

① 旅館ホテルへの受入れ

2月19日現在

内 容	受入れ先	被災地	経路	受入れ期間	人数	備 考
ホテルへの2次避難	喜泉	七尾市	個人	1/14～2/2	2名	2/2 生地特公賃 鍵引き渡し
ホテルへの2次避難	喜泉	輪島市	個人	1/14～1/31	2名	1/31 ハイムけいやII (浦山) 鍵引き渡し
ホテルへの2次避難	喜泉	珠洲市	個人	1/21～1/23	2名	1/23 自宅へ
ホテルへの2次避難	喜泉	輪島市	個人	1/21～1/23	3名	1/23 妻の実家へ
ホテルへの2次避難	喜泉	輪島市	個人	1/22～1/31	3名	1/31 自宅へ
ホテルへの2次避難	宇奈月グランドホテル	輪島市	石川県	1/26～	59名	2/4 同居家族1名 受入れ追加
ホテルへの2次避難	喜泉	輪島市	個人	1/28～1/29	2名	
ホテルへの2次避難	宇奈月グランドホテル	輪島市	石川県	1/30～	23名	2/12 2名が石川 県みなし仮設へ
計					96名	個人 : 14名 石川県 : 82名

② 市営住宅への受入れ

2月19日現在

市営住宅名	鍵引き 渡し日	人数	被災地	避難 主体	入居前ホテル (受入れ日)	備 考
ハイムけいやII (浦山)	1/31	2名	輪島市	個人	喜泉(1/14～)	
生地特定公賃貸住宅	2/2	2名	七尾市	個人	喜泉(1/14～)	
計		4名				

③ 市営住宅視察等

2月19日現在

内 容	受入れ先	被災地	経路	受入れ期間	人数	備 考
市営住宅視察	延対寺荘	能登町	能登町	2/3～2/4	24名	
市営住宅視察	喜泉	能登町	能登町	2/10～2/11	18名	
市営住宅視察	フィール宇奈月	能登町	能登町	2/10～2/11	15名	
市営住宅視察	延対寺荘	能登町	能登町	2/10～2/12	33名	
計					90名	

④ 2次避難受入れに伴う各種サービス提供

- ・相談窓口 事務職と保健師各1名を配置（毎日11:00～14:00）
- ・疾病者対応 （総合病院）黒部市民病院 随時送迎
（外科・内科）石坂外科内科医院 毎週木曜送迎
（薬）うなづき薬局 ホテルまで配送
- ・健康支援 保健師による健康相談と健康体操（毎日）
- ・高齢者対応 希望者に段ボールベッド貸与
- ・生活必需品 13世帯へ給与
市営住宅受入れ者に家財道具を貸与
- ・買い物支援 黒部市社会福祉協議会による買い物支えあいバスの運行
（月水金運行※祝日除く）
- ・情報提供 ホワイトボード、新聞紙（石川県版の北國新聞及び北陸中日新聞、北日本新聞、富山新聞）
- ・ボランティア 心のケアに関する無料相談、アロマ、リラクゼーション、整体、マッサージ、ヨーガ療法教室、民謡・踊り
- ・レクリエーション
2/3(土)、4(日) Vリーグ アクアフェアリーズ無料招待(両日とも4名ずつ参加)
2/3(土) 宇奈月温泉雪のカーニバルの案内
2/8(木) 19:00～ ホテルロビー シンガー秀樹「湯上りコンサート弾き語りの夕べ」
- ・市営住宅視察
2/11(日) 9:00～ 生地特別公共賃貸住宅、浦山、ハイムけいや、ハイムけいやII

第2. 災害対応の検証

(1) 市での課題と対応方針の整理（案）

区分	課題	対応方針
市民への周知	避難行動	<ul style="list-style-type: none"> ・津波から逃げる避難場所や避難経路等を日頃から各自で想定してもらうよう周知に努める。海拔表示施設を追加する。 ・日頃から、各種ハザードマップの積極的な周知啓発に努める。 ・今回の地震については広報くろべ2月号で一定の報告を行った。 ・避難場所の入口の解錠が間に合わない場合は、ガラスを割って施設に入る対応を市民に周知する。暗証番号付きの電子錠による解錠を検討する。 ・津波情報を正しく理解し、正しく警戒する認識が必要であり、その周知に努める。
	啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ・津波情報の知識や住宅耐震改修支援の周知が必要である。
避難場所対応	<ul style="list-style-type: none"> ・最優先は命を守ることであり、日頃から災害時の避難行動を意識してもらう必要があった。 ・まず、生命を守るための行動が大事だという認識が必要であった。 ・自動車で標高の高い場所への避難された方が多く、道路の渋滞が発生した。 ・大規模な地震発災時には、津波や家屋倒壊の危険があるとの認識が必要であった。 ・避難場所の解錠に際し、施設担当者では間に合わず、登庁した職員から順に向かっており、解錠までに時間を要した。 ・民間の津波避難ビルとの連絡体制や連携が取れていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設予約システム整備事業の電子錠（スマートロック）を活用した解錠を検討する。 ・鍵の管理を含めて、速やかに解錠する方法を検討する。 ・避難場所の開設に職員の地域担当制を設ける。 ・津波避難ビルでの避難者の有無の確認や状況把握を行う。 ・適切でない指定緊急避難場所等の見直しを検討する。

	職員配置	<ul style="list-style-type: none"> ・登庁した職員から沿岸部施設を優先に解錠し、避難場所を開設した。 ・開設数が多い中で、十分な準備態勢をとれない状況で職員を配置した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区在住職員など事前に施設開設担当者の選定を検討する。 ・避難場所の開設数に応じて、自主防災組織の協力が不可欠である。
	運営方法	<ul style="list-style-type: none"> ・突発的な開設に対し、避難者対応に携わる職員数が不足し、避難所運営の知識や必要物品が十分でない状況で対応した。 ・配置職員と自主防災組織による情報共有が不足していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所運営研修で基本知識を習得する。 ・避難所運営マニュアルや必要物品を事前に備える。 ・避難場所の運営に自主防災組織の協力は不可欠であり、理想は職員不在でも開設・運営ができるような体制づくり。
	避難者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・開設数が多い中で、避難者数や状況把握が困難であり、備蓄品の配布にばらつきとタイムラグがあった。 ・避難場所ではない施設への自主避難者が多数おられて、対応に追われた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所運営マニュアルを活用する。 ・準備品及び運営職員の役割を明記する。 ・開設している指定緊急避難場所への移動依頼を行う。 ・指定緊急避難場所以外への避難が発生することを想定し、あらかじめ対応を検討する。
	物資、備蓄品	<ul style="list-style-type: none"> ・必要物資数量の把握に時間を要した。 ・拠点となる備蓄庫保管を原則としており、避難場所に備蓄品を配置していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織に運営協力を求める。 ・各避難場所に理解を求めて、一定数量の備蓄品の分散配置を検討する。
初動対応	職員参集	<ul style="list-style-type: none"> ・第3非常配置（全職員登庁）に対し、概ね、職員は参集したものの、一部連絡が行き届かず、状況把握に時間を要した。 ・職員の連絡体制が不十分であった。 ・登庁していない理由が未把握であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の職員行動について、日頃から防災ハンドブックの熟知の徹底を図る。 ・職員参集訓練を実施する。 ・職員安否確認メールを活用する。 ・LoGo チャットを運用して、緊急連絡体制の確認を徹底する。
	職員配置及び運営	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所の開設数が多い中で、物資の連絡の徹底ができなかった。 ・円滑な本部運営（各所管の業務運営）に対し、初動時において職員数が不足した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指示伝達が徹底し、スムーズな態勢の構築を図れるようにする。 ・対応可能な職員数の報告を求め、配置人数の確保に努める。
	指示系統	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所からの要請連絡が集中し、情報収集、物資搬送の状況や指示が錯綜して確認が遅れる状況が生じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集や伝達事項を確認する訓練など実践的な訓練を実施する。
	災害情報の収集・伝達	<ul style="list-style-type: none"> ・特に初動時の現地情報の収集が不足していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な情報把握のため情報収集体制の早期確立に努める。
	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・防災行政無線が有効活用された。（呼びかけ放送含む） ・避難場所の開設状況を市HP、LINEで周知を行った。 	
	関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・市と避難場所、民間の津波避難ビルとの情報共有が不足していた。 ・他行政機関において、協力の内容や情報共有について事前の確認が必要であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所配置職員、自主防災組織、津波避難ビル管理者との連絡や連携強化による状況把握を行う。 ・本部会議への警察の出席の制度化を検討する。 ・警察からの出向職員の防災危機管理班への兼務を検討する。

(2) 今後の対応検証について

今後は、地区の皆様と課題を共有し実践的な防災の仕組みを考えていく必要があることから、緊急避難場所の運営に協力いただいた自治振興会（自主防災組織）等に今回の災害対応が適切であったか、市としての課題や対応方針をまとめた上で地区の方にご意見を聞く機会を設け、出された課題を整理して今後の防災対策に活かした検証を進めていきます。

さらに、検証結果を踏まえ、地域防災計画や災害対応マニュアルへの反映を検討します。